

## 今年度の交流事業を確認

## 「ふるさと交流企画会議」開催

「令和4年度ふるさと交流会議」が5月19日にオンライン形式で開催され、ふるさと交流都市である千葉県柏市と只見町の交流事業の確認などが行われました。

柏市市民生活部の谷口理事は「お互いに協力、支援を続けながら、今後とも交流を深めていきたい」とあいさつをしました。

協議では、両市町からイベント参加や学校給食の食材交換、柏市での只見線PR事業など交流事業の確認や提案が行われました。



▲毎年、会場を交互に移しながら開催していましたが、コロナ禍のためオンライン開催となりました

## 只見町・河井継之助記念館

## 開館から50周年を迎える

河井継之助記念館（塩沢）は、昭和47年の5月に一般公開が始まってから50周年を迎え、入口に50周年を記念する看板が設置されました。

河井継之助記念館を運営する会津ただみ振興公社のスタッフは「50周年を記念した事業を行っていききたいと考えています。いよいよ公開になる映画も後押しして、只見町と河井継之助の関係も多くの方に知っていただければと思います」と話しました。河井継之助記念館は、観光客の他に、修学旅行の児童生徒が訪れるなど教育学習施設としても利用が増えています。



▲「祝50周年」の看板と「河井継之助終焉の地」のぼり旗

## 只見中 中学生記者が書く SDGsコラム

## 第5回

## SDGs委員長となって取り組みたいこと

SDGs委員長 3年 吉津 就しゅう



前年度SDGs委員会の委員長だった佐藤さんの後を引き継いで、今年度のSDGs委員長になった吉津就です。私は、SDGsの理念【誰も取り残されない】という考えを町内はもとより町外に広め、その活動範囲を広めたいと考えています。

中学校入学までは、SDGsにそれほど興味を持ってはいませんでした。しかし、その内容を学び実際に中学校で活動を始めてからは、世界中で取り組まなければならないものと考えが変わってきました。中学校で新聞紙レジ袋やねっか袋を作っていることが注目されていますが、SDGsの本質に触れるにつれ、只見中学校卒業の先輩方が素晴らしいと思うようになってきました。いつしかSDGs委員会に入り、リーダーとして活動したいと思うようになったのは、そんな先輩に少しでも近づき、自分なりのやり方で【誰も取り残されない】を実現したいと思ったからです。

SDGsに対する町内の意識は高いと感じていますが、それだけでは不十分だと思います。私は他の市町村の中学生がもっと活動をするにより、多くの方がより良く生きることに繋がっているのです。実際に会わなくても、インターネットを利用して多くの人が意思疎通できる世の中になってきました。これを利用し会議をして、それぞれの地域で活動すれば良いと思うのです。そして、互いの活動を報告し合うことで、広い範囲の同じ考えを持つ仲間を増やしていきたいと考えました。【誰も取り残されない】社会を只見から始めませんか？